

仏事コーディネーター 資格取得者を訪ねて

BUTSUJI-COORDINATOR

……永楽堂（東京）……

「資格は様々な場面で役立つと思います」

鈴木孝夫氏 豊田勝彦氏

永楽堂（東京）は東京都内に四店舗（板橋・巣鴨・武蔵小山・十条）展開、創業（昭和元年）以来、多くのお客様に親しまれている。今回、取材に御協力頂いたのは、鈴木孝夫氏（板橋店営業部）と豊田勝彦氏（巣鴨店スタッフ）の二人。

鈴木氏の出身は神戸、大学卒業後、洋菓子業界の卸会社に勤務、転勤が多く多忙な日々でした。永楽堂に入社したのは四年前、転職した理由は、両親の他界がきっかけであった。さらに精神的な世界や仏教に興味を抱いたという。また、実家には仏壇があり、祈りの習慣も記憶に残っていると過去を振り返る。同社に入る前は仏事について全く未知の領域であった。同社に入社した後の感想は、「とにかく奥の深い世界ですね、覚えられないほど知識がありますね」と話す。ちなみに豊田氏とは同じ年に中途入社、仏事コーディネーター資格試験も同じ年（平成二十五年）に受けたという。年齢は離れているが、心強かったと



左から豊田勝彦氏 鈴木孝夫氏（永楽堂）

いう。すでに同社では仏事コーディネーター資格者が数名おり、受験前はさまざまなアドバイスや情報を受けたという。そのほか、過去に出題された試験を参考にするなど、研鑽を積んだ。「資格を取得したことにより、一層、学習をしなければと思うようになりましたね、プレッシャーを感じます」と感想を話す。

豊田氏は埼玉県出身、大学卒業後、家業である工務店に入り、父親とともに仕事を続けたが、工務店の破綻をきっかけに、某葬儀社に転職、高齢化社会に伴い、魅力を感じる仕事であったという。二年間の勤務の後、同社に転職。仏壇仏具の仕事は前職の経験もあり、とても身近であったと話す。仏事コーディネーターの受験は、「ガイダンスの内容は膨大でも覚えきれませんが、通勤電車の中でコピーしたものを繰り返し読みました」と当時の状況を振り返る。資格取得後は「お客様に信頼して頂ける実感がありますね、商談が円滑に進められるケースが増えました」と話す。最後に今年、受験される方や受験を考えている方に励ましの言葉をお願いした。

「是非チャレンジして取得してほしいと思いますね。自分の自信につながりますし、若い方にもチャレンジしていただきたいし、次の世代につながるような流れにしたいですね」と二人は異口同音にエールを送る。



永楽堂巣鴨店、とげぬき地蔵の真ん前にあり、常に来店客が絶えない